

「松江だんだんシェア傘」 プロジェクト協働実践事業
【NPO法人まちづくりネットワーク島根・しまね暮らし推進課】

取組の背景

- ・雨の似合う街、観光都市松江を地域の皆で演出したい。
- ・一般市民はもちろん観光にお越しいただいた方々も、誰もがどこでも気軽に傘を借りられて、どこにでも返せる仕組みがつかれないか考えた。
- ・傘のリユースと傘のシェアによる活動を通し、市民が少ない負担で気軽に地域貢献に参加できる仕組みをつくることで、観光都市である街と自覚し、地元への愛着を促し、暮らしやすい街づくりが自然に形成できると考える

事業概要

- ・シェア傘に使うリユース傘 1 万本を集める
- ・借りる・返す場所として市内200箇所に傘立てを設置
- ・「松江だんだんシェア傘」設置箇所ホームページを作成し即時更新、携帯電話・スマートフォンでも利用できるようにする。
- ・事業所・商店・住民に協力頂き地域で続けられる体制をつくる
- ・傘の寄附、「てご」の寄附、活動費の寄附などの推進

実施団体と行政それぞれの役割分担

- NPO法人まちづくりネットワーク島根
- ・傘立て設置協力者など民間への募集開拓
 - ・取り組みの広報
 - ・継続的实施に向けた事業内容検証 など

- しまね暮らし推進課
- ・県関係施設への傘立て設置の協力依頼
 - ・団体と地域との情報交換窓口
 - ・事業内容検証 など

主な事業内容

- ・JR米子支社より忘れ物傘 1 万本を集める
- ・借りる・返す場所として傘立てを商店街・飲食店・会館・駐車場・バス車内・タクシー車内へ設置
- ・「松江だんだんシェア傘」ホームページの作成及び運営。（携帯電話・スマートフォンでも利用できるようにする）
- ・説明会、イベントを通じて、傘の寄附、「てご」の寄附、活動費の寄附などの推進活動

事業の主な成果

- ・シェア傘用の傘1万本の寄附集め
- ・寄附傘の整備及びシール貼りをイベント（7月、9月）として、一般市民の参加を求め実行。
- ・シェア傘の設置と「てご」の説明を商店街組合、事業所、業界団体等へ実施

工夫・ノウハウ

- ・JRからだけでは無く、事業所にも忘れ物傘（遺失物届出済）があり寄附頂けるようになった
- ・紙の設置場所パンフレットを作成せずホームページで随時更新するようにした
- ・維持管理の作業を細かく分解して誰でも手伝いやすくした

今後の活動方針

- ◆傘の確保
 - ①JR米子支社より年間2,000本を寄贈予定、②一般からの不利用傘の寄附募集活動（2,000本）、③シェア傘の返却推進（設置場所の増強 250ヶ所）
- ◆活動資金の確保
 - ①だんだんシェア傘活動支援寄附金の募集（30万円）、②活動を通じての当会員数増強による会費収入（10名増）
 - ③「てご」の浸透による「時間労力」の確保（イベント3回）